

令和5年第11回教育委員会会議

1 日 時

令和5年8月29日(火)

開会 10時00分

閉会 10時40分

2 場 所

県庁行政庁舎 17階 教育委員会室

3 出席者

北野喜樹教育長、新屋長二郎委員、新家久司委員、眞鍋知子委員、高野勝委員、浅蔵一華委員

4 説明のため出席した職員

吉田雅英教育次長、塩田憲司教育次長、金子俊一教育次長、山本一彦庶務課長、高倉英明教職員課長、北島公之学校指導課長、岩木智子生涯学習課長、辻江冬樹文化財課長、瀬戸博邦保健体育課長

5 議案件名及び採決の結果

議案第19号 教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について（原案可決）

議案第20号 石川県立夜間中学の校名決定について（原案可決）

議案第21号 令和6～9年度使用石川県立特別支援学校小学部教科書の採択について（原案可決）

議案第22号 教職員の人事について（原案可決）

6 審議の概要

・開会宣告

北野教育長が開会を告げる。

・会議の公開・非公開の決定

議案第21号は教科書採択に関する案件のため、議案第22号は人事に関する案件のため地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項に基づき非公開とすることを全会一致で決定。

・質疑要旨

以下のとおり。

議案第 19 号 教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価
について（山本庶務課長説明）

それでは、議案第 19 号「教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況の点検及び評価」について、別添資料をご覧ください。

本議案につきましては、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第 26 条において、教育委員会は、所管する事務の管理及び執行状況について、点検及び評価を行い、公表することとされておりますので、その内容をお諮りするものであります。

なお、この報告書の作成にあたり、教育委員の皆様方にご意見をお聞きしたほか、学識経験を有する方として、金沢美術工芸大学の桑村教授、金沢大学の原田准教授のお二方から、点検評価に対するご意見をいただき、報告書に反映させております。

それでは、概要につきまして、お手元の報告書（案）で概要をご説明させていただきます。

1 ページをご覧ください。1 つ目の柱は、「新型コロナウイルス感染症と共生していく学校運営」であります。

「学校における新型コロナウイルス感染症対策」につきましては、引き続き、校内の清掃や消毒作業の補助を行うスクール・サポート・スタッフの小・中・高等学校及び特別支援学校への配置や、特別支援学校のスクールバスの増便など、学校現場における感染防止対策に取り組んだものであります。

さらに、2 ページの「県立学校における衛生環境整備」につきましては、様々な感染症を予防する観点から、トイレの洋式化及びトイレや廊下の手洗い場の自動水栓化を、計画的に整備したことについて記載しております。

3 ページをご覧ください。2 つ目の柱は、「いしかわに誇りと愛着を持ち、世界と地域に貢献する人材の育成」であります。こちらにつきましては、4 ページをご覧ください。

「**㊦**企業と連携したアントレプレナーシップ教育の推進」につきましては、令和 3 年度から、珠洲市へ本社機能を移転した東証一部上場企業のアステナホールディングス（株）と連携し、飯田高校の 2 年生を対象に、ビジネスプランの作成及び磨き上げなどのアントレプレナーシップ教育を実施しており、昨年度は実施校を奥能登地域の 5 校に拡大したことを記載しております。

8 ページをお開きください。3 番目の柱は、「学力を高め、社会の変化に対応できる資質・能力の育成」であります。

9 ページをご覧ください。

「**㊦**スーパーサイエンスハイスクールのフォローアップ」につきましては、国においては、将来、国際的に活躍できる科学技術人材を育成するため、平成 14 年度からスーパーサイエンスハイスクールを指定しており、本県では、これまで、金沢泉丘、七尾、小松の 3 校が指定され、国から財政支援を受けて、先進的な理数系教育を実施しております。

3 校の理数科では、科学オリンピックなどの全国規模のコンテストにおいて多々、上位入賞を果たしているほか、大学は理系学部に進学し、卒業後は研究者や技術者、医師などの職業で活躍する人材を多く輩出するなど、確実に成果が現れております。

中でも、全国でもいち早く指定を受けた金沢泉丘高校については、令和3年度末で4期19年間の経費支援を伴う指定期間が終了したところであり、令和4年度から県独自に支援することで、本県の理数系教育の推進を図ったことを記載しております。

12ページをお開きください。

「教員のICT活用指導力の向上」につきましては、令和3年度に引き続き、学校トップの意識改革を図るための管理職向けの研修や、校内研修を牽引するリーダー教員を対象とした研修を実施するとともに、モデル校において、優れた指導法を他校に普及するなど、教員の指導力の向上を図ってまいりました。

13ページになりますが、また、高等学校では、新たに教科ごとに選抜教員と県教委の指導主事からなるプロジェクトチームを編成し、各PTによる公開研究授業や授業の動画配信などにより、県内各校におけるタブレット端末を効果的に活用した授業づくりの研究に取り組んだことを記載しております。

次に、「**⑧**県立学校におけるICT支援員の配置」につきましては、令和4年度から1人1台端末の配備となった県立学校において、端末管理や機器のトラブル対応など日常業務の増加に対応するため、新たにIT企業の退職人材等を活用し、「ICT支援員」を配置したことを記載しております。

16ページをお開きください。

「いしかわ特別支援学校と明和特別支援学校の教育環境の向上」につきましては、金沢向陽高校の敷地内に建設する、いしかわ特別支援学校高等部の新校舎に係る実施設計などを実施したほか、両校及び県教委担当課からなるプロジェクトチームにおいて、インクルーシブ教育の具体の検討を進めているところであり、令和7年4月の開校に向け、ハード・ソフトの両面から諸準備を進めていることを記載しております。

20ページをお開きください。

4番目の柱は、「豊かな心と健やかな体を備えたしなやかでたくましい人づくり」ですが、こちらにつきましては、1枚おめくりいただき、22ページをご覧ください。

「**⑨**学校におけるカウンセリングの強化」につきましては、いじめや不登校等の問題の対応にあたるスクールカウンセラーについて、県臨床心理士会等の協力を得て、10名増員し、小中高等学校全校及びやすらぎ教室全7か所に配置したことで、教育相談体制の充実を図ったことを記載しております。

23ページをご覧ください。

「インターネット等の適正利用の推進」につきましては、インターネットやスマートフォンの長時間利用や利用者の低年齢化が進んでいることから、新たに年長児を配付対象とし、年長児から高校生までの保護者にパンフレットを配付するとともに、家庭でのルール作りのポイントを紹介する動画を県HP等に掲載し、啓発に努めたことを記載しております。

24ページをお開きください。

「**⑩**教員のヤングケアラーに対する理解の促進」につきましては、学校の教員は、子どもと接する時間が長く、日々の変化に気付きやすく、ヤングケアラーを発見しやすい立場にあることから、ヤングケアラーの早期発見・把握につなげるため、生徒指導担当・教育相談担当の教員を対象に、ヤングケアラーについての基礎知識や発見の視点、対応方法などを学ぶ研修を実施したことを記載しております。

27ページをお開きください。

「**⑧『生理の貧困』の解消に向けた生理用品の配備**」につきましては、経済的な理由で生理用品を十分に購入できない女性がいるという、いわゆる「生理の貧困」が社会問題となっており、こうした女性に寄り添った支援を強化するため、県立学校において、既に保健室に配備している生理用品を新たにトイレにも配備し、児童生徒の不安軽減を図ったことを記載しております。

28ページをお開きください。5番目の柱は、「信頼される質の高い学校づくり」であります。

「キャリアステージに応じた教員研修の実施」につきましては、若手教員の早期育成に努めるとともに、中堅教員の教科指導力やマネジメント力を身に付けるための研修の実施など、教員の資質・能力の向上を図ったことを記載しております。

31ページをお開きください。

「**⑨夜間中学の設置に向けた検討**」につきましては、様々な事情で義務教育を修了できなかった方などに対して、教育の機会を確保するセーフティーネットとなる夜間中学について、公立夜間中学の設置に向け、県及び市町教育委員会で構成する検討会を設置したものであります。

検討会での「県による設置が望ましい」との結論を踏まえ、金沢中央高校に県立の夜間中学を設置することとし、令和7年4月の開校に向けて準備を進めていくことを記載しております。

その下の、「教職員の多忙化改善に向けた取組」につきましては、スクール・サポート・スタッフや部活動指導員を拡充するなど、学校現場の取り組みに対して支援したほか、国が目指す、公立中学校における休日の部活動の段階的な地域移行に向けて、運動部に加え、文化部においても実践研究を行うモデル事業に取り組んだものであります。さらに、長時間労働の要因の一つになっているテスト等の採点・集計業務にかかる時間を短縮するため、採点業務省力化ソフトを全ての全日制高等学校38校に導入したことを記載しております。

33ページをお開きください。

「県立学校の施設設備の整備」につきましては、校舎の老朽化対策及び学習環境の充実のため、大規模改修を実施したことを記載しております。

35ページをお開きください。

「**⑩県立学校の給食費の保護者負担の軽減**」につきましては、昨今、物価高騰が相次ぐ中、国の物価高騰対策に呼応し、代替がきかない米飯や牛乳などの食材価格の高騰分を公費で負担することで、保護者負担の軽減を図ったことを記載しております。

37ページをお開きください。6番目の柱は、「学校、家庭、地域が連携・協力した、社会全体による教育力の向上」であります。

「家庭教育の充実」につきましては、翌年度に小中学校へ入学する子どもを持つ保護者に対し、規則正しい生活リズムの重要性や、発達段階をふまえた子どもとの関わり方などを掲載した「親学びの冊子」を作成・配付するなど、家庭の教育力の向上を支援したことを記載しております。

39ページをお開きください。7番目の柱は、「生涯にわたり学び続ける環境づくり」であります。

「県民大学校の充実」につきましては、多様化する県民の学習ニーズに応えるため、1,012の講座を開設し、開校以来の修了生は、延べ20,123名に達したこと、子育て世代を対象とした、「ファミリー・カレッジ in 本多の森」を開催するなど、若い世代の学習機会の充実と生涯学習の振興を図ったことを記載しております。

40ページをお開きください。8番目の柱は、「文化財の保存・活用」であります。

「**金沢城三十間長屋の保存修理**」につきましては、国の重要文化財に指定されている金沢城三十間長屋は、鉛瓦の屋根の約半分が赤茶色に変色し、また、屋根の全面が劣化していることから、県が事業主体となり、国の財政支援を受け、令和4年度から2か年で、屋根全面の鉛瓦の葺き替えを行ったことを記載しております。

その下の、「金沢城の調査研究」につきましては、昨年度からは、研究対象を二の丸御殿に重点を置くとともに、刊行物や絵図、石垣の写真など、これまで研究所が蓄積してきた研究成果をインターネットでの公開に向け整備したことを記載しております。

41ページをご覧ください。

「**近世史料の編さん**」につきましては、古代から中世までを網羅した「加能史料」の編さんが一昨年度で完了したことから、次の段階として、昨年度、新たに「近世史料編さん室」を設置し、加賀前田家が統治した近世の史料の編さんに着手したことを記載しております。

47ページをお開きください。「教育委員会会議及び教育委員の主な活動」であります。

「1 教育委員会会議」につきましては、令和4年度は15回開催し、議案31件、報告事項33件について教育委員の皆様へ、精力的にご審議やご意見をいただきました。

その下の「2 教育委員の主な活動」につきましては、委員の皆様には、大変お忙しい中、年間を通して積極的に活動いただきました。その一覧表でございます。

48ページからは、審議された議案や報告事項について、最後の50ページにつきましては、教育委員会の当初予算の概要を記載しております。

以上で説明は終わりますが、本日、審議いただいた後、議会へ報告書を提出するとともに、ホームページに掲載し、公表することとしておりますので、ご審議のほどよろしくお願いいたします。

【質疑】

質疑なし

議案第 20 号 石川県立夜間中学の校名決定について（北島学校指導課長説明）

石川県立夜間中学の校名決定について、説明させていただきます。

1の校名案については、記載のとおり、「石川県立あすなろ中学校」としました。

2の選定理由については、「あすなろ」は石川県の木”あて”の別名であり、明日はヒノキになろうという想いが由来と言われ、自分の夢や希望の実現に向かって学んでいこうとする夜間中学校の理念にふさわしいという考えによるものであります。

この校名案に決定するまでの経緯については、3にありますように、夜間中学の理念にふさわしい校名案を公募したところ、県内在住者から、124件、107作品の応募があり、「あすなろ中学校」が最も応募数が多かった校名案でありました。

先般、公募結果を受けて開催した、教育関係者からなる校名検討会においても、「あすなろ中学校」については、全検討会委員から推薦がありました。

校名案についての説明は、以上です。

ご審議の程、よろしく申し上げます。

【質疑】

質疑なし

（北野教育長）

以降の審議は非公開となるため、傍聴人の退席を促す。

議案第 21 号 令和 6 ～ 9 年度使用石川県立特別支援学校小学部教科書の採択について
(北島学校指導課長説明)

北島学校指導課長が説明し、採択の結果、全会一致で原案のとおり可決された。

議案第 22 号 教職員の人事について (高倉教職員課長説明)

高倉教職員課長が説明し、採択の結果、全会一致で原案のとおり可決された。

- ・ 閉会宣言

北野教育長が閉会を告げる。